

魔法の medicine プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:伊藤将大 所属:熊本県立荒尾支援学校 記録日:2021年 2月 22日
キーワード:SNSでの発信に向けた取組

【対象児の情報】

・学年

高等部3年の男子生徒

・障害名

知的障がい、肢体不自由(脳性麻痺)

・障害と困難の内容

いろいろな考えを持っている生徒。口頭で思いを伝えようとするとうまく発語ができない中で、汗だくになって思いを伝えてくれていた。また、スイッチコントロールによってiPadを操作しようとするとうまくスイッチ入力ができず、5分ほどの操作で汗だくになってしまっていた。「SNSをやってみたい」という思いはあるものの何から取り組めば良いかわからず、行動できていなかった。

【活動目的】

・当初のねらい

筋緊張によって「できない」経験を積み重ねながらも「しっかりがんばらないといけない」と考えていた生徒に、「依頼することで自分にとって楽にできる」経験を積ませるとともに「楽にできることも良いこと」という考えを持ってほしいと考えていた。学習に積極的に取り組むことができ、ICT機器を使うことに強い意欲を示していた生徒でもあったため、本人の「ブログをやりたい」という思いを大切にされた実践に取り組む中で、自分の考えを整理し、発信することを目的とした。

・実施期間

2020年4月～2021年2月

・実施者

伊藤将大

・実施者と対象児の関係

担任

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

SNSに興味があり、「ブログがしたい」というものの家庭や学校で具体的な取組は何もできていなかった。高校1年生時に取り組んだ「新聞づくり」では、自分から「取り組みたい」と言い出すことができず、完成できないままに終わってしまったことで、自分を「継続して取り組むことができない」と捉えてしまっていた。授業後の感想発表では、一問一答であればできごとやそのときの感情の想起ができるものの、文章を伝えようとすると考えをまとめないままに話し出してしまう、うまく意図が伝わらず(支援者が意図を読み取れず)話すことで精一杯になり汗だくになってしまうこともあった。

・活動の具体的内容

発信するための取組

- ・生徒の興味のあるSNSを元に、掲示コーナーを作成した。写真1・写真2
- ・教室前と保健室にコーナーを設置し、「いいね」を入れてもらうようにした。
- ・記事の作成には「えにつき」のアプリを使用した。
- ・記事の更新の際は、えにつきのデータを写真にしたものをA4用紙に印刷し、生徒が持参して貼ったり、掲示を依頼するようになった。



写真1 教室前の掲示コーナー



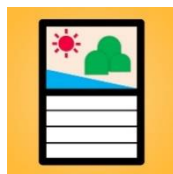
写真2 保健室の掲示コーナー

使用アプリ:「えにつき」AKIHIRO SUZUKI

アプリの説明:写真やイラストで絵日記を作成できる。

保存やエクスポート、よみあげ、文字の大きさ変更、

レイアウト変更、スイッチコントロール対応などが可能



SNS に発信するまでのロードマップ

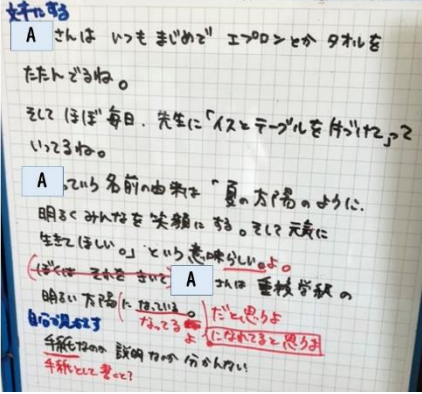
体験・経験 → 伝えたい思いを持つ → ▲振り返って文章にする → ▲記事を入力する(書く) → 発信する

上記の流れで発信に至ることを念頭に置いて実践に取り組んだ。▲で示した事柄が生徒にとって困難さがあると捉えたものである。

考えをまとめながら文章にするための取組

・記事を書き上げる手順を統一することで、生徒にとって見通しが持ちやすいとともに、支援者が変わっても同じやり方で取組ができるようにした。

活動	生徒の活動	支援者の役割
<p>①アイデアを整理する</p>	<p>連想しながらキーワードを言う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに代筆 ・アイデアを広げるために5w1h(なぜ?いつ?だれが?どこで?なにを?どのように?)で質問をする

<p>②文章にする</p> 	<p>①のアイデアを見ながら順序立てて話す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを挙げる ・どの順番で書くかを考える ・「できた」と伝え、代筆を依頼し、文章を口頭で伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・「この中で伝えたいことは？」と発問し、赤マーカーで印をつける ・「考えが整理できたら教えて」と促す。 ・ホワイトボードに代筆
<p>③アドバイスを受け、②を修正</p>	<p>「文章を読んでください」や「おかしいところはないですか」と伝える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み、アドバイスをを行う ・文が分かりにくくなっている所…生徒が意図する内容になっていない部分を指摘した。その際、読み手がどのように誤って受け取るかを伝える。
<p>④えにつきアプリへの文章の入力</p>	<p>入力の依頼</p>	<p>入力</p>
<p>⑤「えにつき」の読み上げ機能を利用して何度か聞く</p>	<p>「再生してください」と依頼する</p>	<p>生徒の依頼に基づいて、アプリの操作</p>
<p>⑥修正・入力</p>	<p>口頭で修正箇所と文章を伝える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・修正 ・様子を見て「これでいいの？」と発問し、③の段階に戻ることを促す
<p>⑦決定</p>	<p>「できた」と伝え、印刷を依頼する</p>	

・対象児の事後の変化

記事の書き方を統一したことで、「いま何を話せばよいか」が明確になり、意見を整理しながら話せるようになった。また、ひとりで考える時間を設定したことで、「まだ」や「できた」などの自分の意思を表明する機会となり、他の場面でも自分から「〇〇がしたいです」と訴えることが多くなった。「記事をもっといろいろな人に見てもらいたい」という気持ちを伝えてきたことから、2020年11月より新たな掲示場所として、職員がよく通る場所を追加した。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

「記事を発信する」取組によって「いろいろな人に自分の思いを知ってもらおう」「知ってもらえたことで関わりが変わる」など多くの経験につながっていった。また、意欲の面で大きな成長があり、実施者が紹介した研修への参加やSNSを通じた当事者とのつながりができるなど生徒を取り巻く環境の変化にもつながっている。

「文章を作り上げる」取組の中で、連想の手法によって考えを広げていくことで、ひとつの出来事について詳しく自分を振り返る経験になっていた。文章にするときに、たくさんの考えのすべてを書こうとすることもあったが、「どれを伝えたいか」を精選することで、より生徒自身の考えがわかりやすく記述できるようになってきた。連想することで引き出されたものがたくさんあることで全体の文章量も増加してきている。また、文章の内容についても、できごとに加えて、生徒自身の感想や詳しい様子の記述が見られるようになっていく。

・エビデンス

<p>取組前・取組前期 ～2020年7月</p> <p>生徒の発言をそのまま記載したもの。</p>	<p>2019年12月のえにつきより。</p> <p>・生徒が楽しそうに授業に取り組んでいたため、「えにつきで書いてみよう」と促し、生徒の発言を聴きとり、そのままの形で作成した。</p> <p>2020年5月のえにつきより。</p> <p>初めて話をした先生のことについて、家庭で作成。保護者が生徒の発言を聴きとり、そのままの形で作成した。</p>	<p>重複棟に外国からサンタさんがやって来た。みんな楽しんでクリスマス会をやりました。</p> <p>先生</p> <p>卒業について話した。卒業までに取り組むことをすごく言ってくれた。嬉しかった。今日は緊張して話せなかったから今度会ったらいっぱい話したいと思う。</p>
<p>取組前期 2020年8月～</p> <p>教師と一緒に取り組み、作成したもの</p>	<p>2020年9月のえにつきより。</p> <p>教師と一緒に取り組み、3回の授業の中で作成した。</p> <p>・名前の由来については、インタビュー形式で授業の中で生徒から尋ね、保護者からの回答を伝えてもらった。</p>	<p>さんはいつもおもちゃを持ってその動きが僕はかわいいって思うしずっとやってる動きが面白い。</p> <p>って言う名前の意味はお父さんがを感じたかららしい。はじめはかっこいいと思ってたけど理由を聞いて泣きそうになった。</p>
<p>取組後期 2020年11月～</p> <p>教師や保護者と一緒に連想し、家庭で保護者と一緒に作成したもの</p>	<p>2020年11月のえにつきより。</p> <p>修学旅行後に作成した。授業の中で行った振り返りの内容や修学旅行のしおりを基にして作成した。</p> <p>2021年1月のえにつきより。</p> <p>冬休みの課題として家庭ですべて作成した。</p>	<p>11月9日と10日に修学旅行で阿蘇の司ピラパークホテルに行きました。そこで楽しかったのは食事とマジックです。食事で1番おいしかったのは波野のそば。量は少なかったですが、喉越しが良く、美味しかったです。マジックショーで1番不思議だったのは木の筒から水が入ったかめつぼが出てきたところ。その時僕は集中してて、時間が早く感じました。とても不思議でした。僕は高校3年生最後の修学旅行を楽しみました。やっぱり修学旅行はいいと思いました。</p> <p>卒業まで後3ヶ月くらいですがFacebookの更新を頑張ります。お友達についてのFacebookと卒業おめでとうパーティーなどを書きます。あと少しで卒業なので一人でも多く僕のことを覚えておいて欲しいから、出来るだけたくさんの人とお話をしたいと思っています。</p>

・その他エピソード

えにつきで記事を作り上げるためには、①日付の選択②写真の挿入③文章の入力という3つの工程があり、③については前述した流れで取組を進めた。①については更新する日とした。②については【支援者の操作による選択】【生徒の指示による支援者の操作による選択】【生徒のスイッチコントロールによる選択】という段階で実施した。スイッチでの操作についてはリハビリのスタッフ(PT、ST)と連携しながら実施していたが、側湾の進行に伴い姿勢に制限が出たことから、取組を中断した。



図1 えにつきの操作画面

【反省点】

更新するスケジュールについて、計画的な取組が実施できておらず、結果的に(2021年2月)生徒に負担を強いる形になってしまった。振り返りながら、更新の頻度について生徒と検討したこととそれをうけた更新回数を以下に記述する。

取組の経過

(5月末~7月末)記事の書き方を教師と一緒に取り組む時期であり、更新頻度については指示していなかった。

(夏休みの課題)えにつきを1つ書きあげる

(8/25)9/18(金)までに3つの記事を仕上げる→9/1①、9/7②、9/21③・・・未達成については言及せず。

(10/5)10月の更新予定「月に5回」について・・・10/14①、10/20②、10/22③、10/25④、10/28⑤

(11/20)11月の更新内容・予定について→11/18①、11/20②、11/24③、11/28④

11/28の記事について・・・月に5回の目標が達成できなかったことを記述

(12/2)12月の更新予定について→12/5①、12/6②、12/12③、12/12④、12/17⑤

(12/23)1月からの更新予定(月・木更新)・冬休みに家庭で書きためることについて

・・・12月に連日で更新する場面が多く、更新を見てもらえないことが続いたため、更新の日付を決めることとした。

→1/4①、1/18②、1/21③、1/25④、1/28⑤

(2月)体調を崩し、休んでいる間に「更新頻度を下げたい」ことを訴える。その後、1週間ほど欠席。

(2/17)更新の頻度については設定せず、教師と一緒に記事を考えることを確認した。

反省を踏まえて、更新についての考え

・更新頻度については設定せず、一定期間毎にどれだけの記事を書いたかや一定期間経過した後に記事を読み返すなどの振り返りを行うようにする。

→「1ヶ月で5つの記事を書く」などと設定したことで、月末に時間不足が生じて焦ってしまったり、思いのこもらない文章になってしまったりした。自らの伝えたい思いを発信するという意図に対して、更新頻度を設定することはそぐわないと考えました。ただし、行事などタイムリーな記事を書く場合には、書き上げる時期の目安(締め切り)を設定することは「書こう」という意欲や、読み手が行事を思い返しながらか読みやすいことなどから、様子に応じて余裕を持って期間を設定することが効果的な場合もあると思う。

例)「文化祭の思い出」を文化祭が終わって2週間以内に書く。など。

反省を踏まえて、取組の段階についての案

段階1:書き方を学ぶ・・・支援者と一緒に記事の書き方に慣れていく。

段階2:指導者以外の支援者と記事を書く。・・・手順を共有し、支援できる人を広げる。

→本人が書き方を学ぶ段階1と、支援者を増やす段階2を設定する。

今後の取組・・・生徒や保護者と相談した上で決定する。

(段階0)記事を作成せず、新たな生活に慣れる。

(段階1)保護者と記事を作成し、利用する事業所に掲示してもらう。

・いろいろな考えを持っており、話して伝えることができることや緊張があるとうまく発語できないことを知ってもらう。

(段階2)行事やイベントの後などに施設のスタッフと記事を作成し、利用する事業所に掲示してもらう。

・言葉の聴きとりに慣れた段階(1~2年後)で保護者や本人から依頼する。

(段階3)施設のスタッフと記事を作成し、施設の広報誌などに掲載してもらう。